

# 介護 なんでも 相談室



**松永安優美** まつながあゆみ  
栃木県出身、内科医。埼玉医科大学卒。同大付属病院を経て実家の松永医院に勤務。平成3年から特別養護老人ホーム、介護老人保健施設、養護老人ホームなどを設立。現在、医療法人「聖生会」理事長、社会福祉法人「裕母和会」会長として、医院と8つの介護施設を運営している。

**Q** 88歳の母親がグループホーム施設に入っています。軽い認知症と下半身の衰えで、一人暮らしをさせられないからです。施設は東京から車で1時間ほどの場所で、月額利用料は約20万円です。ところが母親は、入居3カ月でどんどん会話が少なくなり、体も自分で動かさなくなっています。そこで兄妹で相談して、1カ月ずつ交互に自宅に引き取って面倒をみて、どうしても手に負えないようなら、また施設に戻ってもらおうという話になりました。そのため、現在の施設は解約しないで、継続するつもりです。この方法はおかしいでしょうか？

高齢者のグルリつけの

**A** ープホーム（認知症対応型）グループホームに限っては、少人数（5～9人）のことをすすめます。

ユニット単位）で専門のグループホームに限った介護スタッフと共に家事などを行う日常生活やレクリエーションなどを共同で行う施設です。その意味で、自宅で暮らしているよりも毎日の生活に刺激があり、認知症の進行や足腰の衰えを遅らせてくれる効果もあります。でも、相談者のお母さんには逆に、無口になって体を動かさないのと、そうだとすれば、別して、それが刺激になる理由を考えてみるべきです。グループホームに入居していることが原因でなく、何らかの病気の発症又は持病の悪化、認知症の進行による変化から、慎重に考えてください。また88歳という年齢から考えて、老衰の進行で行動力が落ちたともいえます。ひとまず施設の医師か、かか

る医師にじっくり相談して、まず施設の医師か、かか